「絵本、そしてその背景の心温まるメッセージをお送りするに当たり」

縁あってこの絵本を手にして下さった御一人御一人に心よりの祝福がありますように。

昨年、三鷹の50周年記念誌が発行されて、今年は村尾さんの思いつきで弟の一周忌に、私やおじちゃんこと弟を喜ばす為にと書き上げた絵本がクリスマスを前に出版されました。

昨年弟は「50周年」をどんなに手伝いたかったでしょう。悲しい出来事も、神さまの領域に於いて光を与え慰めを与えられ、こうした奇蹟の絵本と言う形あるものへと変えて下さいました。試練も何事も主のみこころが成る時に思わぬ道があった事を深く心に思わされました。

絵本が多くの方々へのプレゼントに出来たことも、篤志家を始めとして小羊教会又多くの貴い献金があってのこと、そして小羊の園児、職員、保護者、卒園児等々の心の集まりが絵本の裏側にあった事を思い勝手ながら連絡帳から、またお便りの中から寄せられておもいを集めてみました。おじちゃんを知らない方でもよろしかったらお受取り下さい。

「すべての事が相働きて益となる」のみことばを信じて職員の手によって出来た事を感謝いたします。

平成24年11月

小羊チャイルドセンター　職員一同
市川　益子

I「園だより」より

神様の恵みによって

（行田小羊・23年8月の園だよりより）

先日、小羊チャイルドセンター職員のおじちゃんが7月19日（火）入院しました。その前から、週に3日程点滴に行田市内の病院に通院していましたが…おじちゃんは体調の変化があり入院致しました。腸の病気です。私達職員は、朝のおあつまりにおじちゃんの事をお祈りしたり仕事終了後、順番におじちゃんの病院に行き、一日も早く元気になれる様励ましたり、順番に行くことを職員の間にて話し合いました。

病室でおじちゃん!!と声をかけると耳は聞こえていますからうなずいたり短い話をしていましたが、【心は生きて働いています。】

子ども達がおじちゃんに、一日も早く元気になる様にお絵描きをして送りました。お絵描きをみながら市川先生が○○ちゃんは「おじちゃん、げんきになって下さい」と言ってるよ。○○くんが「また遊んでね」○○ちゃんが「いっぱい抱っこしてくれてありがとう。」って!!○○くんが「また遊ぼうね、早番で遊んでくれてありがとう」と読んでくれました。こばとさんからろばさんの子ども達が描いてくれた絵や文章をおじちゃんの耳もとで話して下さいました。かすかなうなずきであっても、きっとおじちゃんの心の中には一人ひとり顔を思い出し表情を思い浮かべてくれていたことと思います。